

平成24・25年度 立川市教育委員会研究協力校
 平成24・25年度 立川市学力向上推進研究校
 平成25・26年度 東京都学力向上パートナーシップ事業調査研究校

研究主題

確かな学力を育む学習指導の在り方

～授業改善・学習機会の拡充・学習意欲の向上を通して～

立川市立立川第一中学校

1 研究の概要

研究の背景

平成23年度の東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では

基礎的・基本的な知識・技能

Aの教科の内容の問題において
東京都の平均正答率を**下回る**

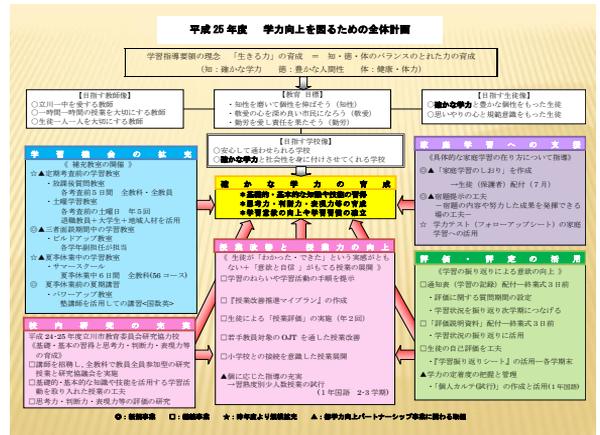
思考・判断・表現する力

Bの読み解く力に関する問題において
東京都の平均正答率を**大幅に下回る**

平成23年度の「生徒による授業評価」では

学習意欲

学習に
前向きな集団とそうではない集団
との**二極化**が見られる



2 実践報告

授業改善と 授業力の向上

授業改善と授業力の向上

質の高い授業の提供



- 生徒が達成感を味わう
- 自ら考え・表現する姿勢を身に付ける

授業改善と授業力向上のための手だて
全員参加型の研究授業
 (2年間で全教科を実施)

全員参加型の研究授業

平成24年度 (1年次) 平成25年度 (2年次)

「基礎・基本の習得」

「思考・判断・表現する力の育成」

通年講師
 田中洋一先生からのご指導
 (方向性にブレのない授業改善を推進)

「基礎・基本の習得」 を目指した授業改善

指導法の工夫による分かりやすい授業



授業の はじめに
 「学習の見通し」
 授業の 最後に
 「学習の振り返り」



「基礎・基本の習得」

分かりやすい授業

「学習の見通し」

学習のめあてを明確にする
 (板書や学習シート 等)

「学習の振り返り」

単元・授業の最後に実施する
 (振り返りテスト 等)

「振り返りテスト」の例

理科振り返りテスト② 3年 組 番・氏名 _____

【身に付ける力】 夏至と冬至の昼の長さや夜の長さを理解し、図に示すことができる。

問 北緯35°の日本における
 夏至の昼の長さや夜の長さを比較できるように作図しなさい。昼の長さを太陽で示しなさい。
 冬至の昼の長さや夜の長さを比較できるように作図しなさい。昼の長さを太陽で示しなさい。

「思考・判断・表現する力の育成」 を目指した授業改善

全教科共通の「授業づくりのポイント」
 「思考・判断・表現する力を評価する授業」



- 単元の中で思考・判断・表現に関して「身に付ける力」を明らかに
- 生徒が思考・判断・表現する場面と授業者がどのように評価するかを単元の中に意図的・計画的に盛り込む

研究協議会の工夫

ワークショップ形式

研究授業では
6名の生徒を分担して観察（1人1生徒）
生徒の活動を詳細に観察して記録

協議会では
生徒の思考する場面の記録を報告
生徒の変容から指導法の改善を考察

⇒ 生徒の変容を把握する力が伸びた

研究授業の成果

教師
「思考・判断・表現する」
場面を意図的・計画的に
設定

生徒
「考える」活動が
しっかりできる

授業では
■生徒が考えようとする発問の工夫
■思考したことを表現する方法が
分からない生徒への指導の工夫

授業改善の視点の明確化

授業改善の成果

「授業力向上」に関する質問項目	H24.7	H25.11
授業のはじめに、先生は、今日の学習のめあてや見通しを示してくれますか？	81%	91% +10%
先生は、授業の目的や課題について、わかりやすく説明してくれますか？	79%	89% +10%
授業の説明や指導はいいいでわかりやすいですか？	79%	89% +10%
自分の考えを書いたり発表したりする学習活動をして、自分の考えを深めることができますか？	67%	76% +9%

授業力の向上

評価・評定の活用

学習意欲を向上させる取組

評価・評定の活用

生徒の学習意欲を向上させる取組

学期の始め

「評価方法」を事前に伝える

学期を
ひとつの
スパン

学期の終わり

評価・評定を伝えた後に
学習の振り返りを丁寧に行う

次の学期の学習目標を立てさせる

学期の始め

各教科の「評価方法」を配付

- 学習内容と学習のポイント
- 定期考査に向けてのアドバイス
- 評価規準と評価材料
- 各評価の評定に対する割合

※評価規準は平成23年11月に国立教育政策研究所から出された「評価規準の作成のための参考資料」を参考

平成25・26年度

東京都学力向上パートナーシップ事業調査研究校

重点教科=国語科

個に応じた指導の工夫

□文法・漢字等の言語事項の学習

(1年 国語科 熟度別少人数授業・TT)

学習の定着度の把握と管理

□「個人カルテ」の作成・活用

小中連携教育活動と関連・充実 → 学力向上

学習機会の拡充

補充教室の開催

学習機会の拡充を図るための 基本的な考え方

放課後質問教室 土曜学習教室 ビルドアップ教室

基礎学力の定着

自主学習方法を知り
家庭学習の定着へ

学習意欲の向上と
学習習慣の定着

+

発展的な学習への
関心・意欲の高揚

サマースクール

パワーアップ教室

補充教室

- 定期考査前の学習教室
 - ・放課後質問教室(拡充)
 - ・土曜学習教室(拡充)
- 三者面談期間中の学習教室
 - ・ビルドアップ教室(新規)
- 夏季休業中の学習教室
 - ・サマースクール(拡充)
- 夏季休業前の夏期講習
 - ・パワーアップ教室(新規)

定期考査前の学習教室 放課後質問教室(拡充)

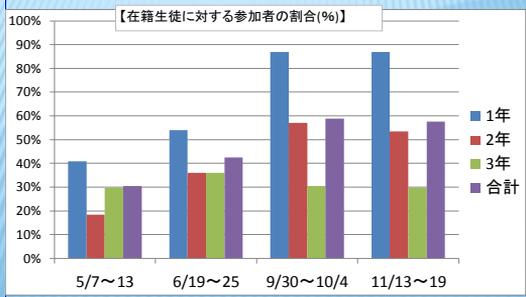
- 目的 基礎学力の定着
家庭学習の定着に向けた支援
- 期間 各定期考査前の1週間
- 時間 15:45~16:45 (1時間)
- 実施方法 2つのコースを設定
教員が指導
- 復習授業コース
 - 質問・居残りコース

放課後質問教室

- 復習授業コース
【テスト範囲の復習を一齐に行いながら学習するコース】
対象：学力の定着に課題のある生徒
国語・数学・英語・理科・社会の各教科担当が指名
指名された生徒のみの参加(10~20名)
- 質問・居残りコース
【自力で学習するコース】
対象：実技教科を中心に質問をしたい生徒
個別に指導を受けたい生徒
学校で居残り勉強をしたい生徒
希望生徒全員参加可

放課後質問教室

放課後質問教室 参加状況の推移



定期考査前の学習教室 土曜学習教室(拡充)

- 目的 基礎学力の定着
学習意欲の向上や学習習慣の定着
- 期間 各定期考査前の土曜日(半日)
- 時間 9:00~12:00または13:30~16:30
(50分×3コマ)
- 実施方法 2つのコースを設定
外部指導員が指導
- 力試しコース
 - 個別指導コース

土曜学習教室

○力試しコース

【自力で取り組むことができるが解説があるとよい生徒向け】
国語・数学・英語・理科・社会
考査範囲の問題への取り組み
退職教員が解説
教材は指導書のまとめの問題等

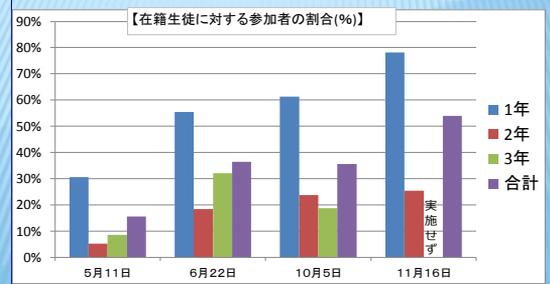
○個別指導コース

【自力で取り組むのが困難な生徒向け】
各自が教材(教科書・問題集・ノート等)を持参して学習
学習支援員や地域の方々が個別に支援

各自の希望で事前にコースを選択

土曜学習教室

土曜学習教室 参加状況の推移



放課後質問教室 土曜学習教室

参加者増加の背景

- ◇個別指導をもっと受けて学習したい
- ◇家より学校の方が落ち着いて学習できる
- ◇復習授業コースに呼ばれなくなったが学校で学習したい
- ◇家庭学習の成果を試すことができた

成果

- ◇学習意欲の向上
- ◇学習習慣が定着
- ◇学習方法の理解と定着

課題

- ◆時間設定
- ◆外部指導員の選定
- ◆使用教材の準備

三者面談期間中の学習教室 ビルドアップ教室(新規)

- 目的 学力の定着 学習意欲の向上
学習習慣の定着
- 実施期間 11月三者面談期間の5日間
- 実施時間 13:30~15:15(1時間45分)
- 実施対象 基礎学力の定着が不十分な生徒
1年17名 2年4名 3年9名
- 指導者 各学年の副担任
- 使用教材 面談期間中の課題
生徒の状況に応じた課題

ビルドアップ教室

指導例 <1 学年> 数学と英語に特化して指導

成果 ◇数学と英語の得点 受講者すべてが中間考査より **アップ**
◇数学と英語の平均点 学年平均の中間と期末考査差より **大**

		受講者平均		学年平均		
		受講者平均	学年平均	受講者平均	学年平均	
数学	2学期中間	18.5	54.5	2学期中間	17.9	60.0
	2学期末	36.0	70.2	2学期末	28.1	64.3
	平均点差	17.5	> 15.7	平均点差	10.2	> 4.3

課題 ◆学習場所 ◆三者面談待ちの生徒管理 ◆指導時間の長さ

夏季休業中の学習教室 サマースクール(拡充)

目的 自らの課題発見
基礎的・基本的な知識や技能の補充
発展的な学習への関心・意欲を高める

期日 夏季休業開始直後3日間
夏季休業終了直前3日間

時間 ① 9:00～9:50
② 10:00～10:50
③ 11:00～11:50

コース数 56コース

サマースクール

指導者 各教科担当

1 年生数学には小学校の教員も参加

		国語	数学	英語	理科	社会	音楽	美術	技術
1 学年	基礎コース	0	2	0	0	0	0	0	0
	標準コース	2	3	2	1	1	標準 コース 2	標準 コース 2	発展 コース 2
	発展コース	2	1	2	1	1			
2 学年	標準コース	2	2	2	1	1			
3 学年	発展コース	2	2	2	1	1			

サマースクール

成果

◇参加率の増加

◇参加コマ数の増加

	H24	H25		H24	H25
1 年生	61.3%	77.0% ↑	1 年生	3.6 ↑	5.5 ↑
2 年生	40.0%	43.0% ↑	2 年生	3.8 ↑	4.4 ↑
3 年生	40.0%	38.3%	3 年生	4.4 ↑	4.9 ↑

※1 コマ以上の参加生徒

※参加生徒 1 人あたり

課題

- ◆三者面談の設定時間の制約
- ◆部活動の設定時間・活動場所の制約
- ◆参加者の集約や参加者の調整の事務作業が膨大

夏季休業前の夏期講習 パワーアップ教室(新規)

目的 夏季休業中や受験勉強に向けた
自己の課題発見・学習意欲の向上
応用・発展的な学習を通じた
学習意欲の高揚・学力の向上

対象 3 年生

実施日 7月13日(土)・19日(金)

実施時間 80分×2コマ(国語・数学・英語)

指導者 大手進学塾講師

生徒自身が事前に教科を選択

パワーアップ教室

	申込者数	2コマ参加者	1コマ参加者	不参加者
7月13日	32人	23人	5人	4人
7月19日	43人	21人	11人	11人

1 コマあたりの参加者数 最少5人 最多14人
延べ60人参加

パワーアップ教室

生徒アンケートより

- ◇講義の取組度「意欲的だった」の回答 3教科平均89.2%
- ◇講義の理解度「理解できた」の回答 3教科平均91.2%
- ◇感想 ・後にこういう問題がでるならもっと学習しなければと思った。
・予習になった。わかりやすく理解できた。

成果 夏季休業中や受験勉強に向けた自己の課題発見
応用・発展的な学習を通した学習意欲の高揚・学力の向上

- ◆取組度1コマ目平均94.7% ⇒ 2コマ目平均82.2% **ダウン**
- ◆理解度1コマ目平均94.7% ⇒ 2コマ目平均86.7% **ダウン**
- ◆2コマ目を受けずに帰る生徒が参加60名中、16名
- ◆感想 ・80分は長く、2校時はやる気なし。理解もできなかった。
・お昼後はつらい。2校時がすごく眠かった。

課題 コマの設定時間・設定コマ数・設定日等の工夫が必要

家庭学習への支援

- 家庭学習の行い方の指導
⇒**家庭学習のしおり**
- 家庭学習を促すための工夫
⇒**宿題提示の工夫と授業での活用**

家庭学習の行い方を指導

家庭学習のしおり

各学習の仕方をもとに
具体的に示す

- ◇日常的な学習
- ◇定期考査前の学習
- ◇長期休業中の学習
- ◇発展的な学習

生徒がどのように
家庭学習をしたら
良いかが分かる

<家庭学習のしおり内容例>

1年 英語

【授業の学習】
授業内容を復習する。重要単語・表現をノートにまとめる。
授業で扱った文法事項・語彙を整理し、活用する。
授業で扱った問題・練習問題を再行い、理解を深める。

【定期考査前】
定期考査前にあるポイントを中心に、授業で学んだ内容を再確認する。
重要単語・表現をノートにまとめる。活用する。
定期考査前にある問題・練習問題を再行い、理解を深める。

【長期休業中】
授業で学んだ内容を再確認する。
重要単語・表現をノートにまとめる。活用する。
長期休業中に学んだ内容を再確認する。
重要単語・表現をノートにまとめる。活用する。

【発展的な学習】
授業で学んだ内容を再確認する。
重要単語・表現をノートにまとめる。活用する。
発展的な学習を行う。
重要単語・表現をノートにまとめる。活用する。

家庭学習のしおり

※学力診断テスト意識調査データより

◇授業の予習や復習は必ずする生徒の割合		◇学校以外での1日の勉強時間が2時間以上の生徒の割合	
	一中	全国平均	
予習・復習	5.7%	> 3.4%	5月 9.7% < 17.0%
宿題の実行	21.5%	> 17.8%	11月 14.0% > 11.3%

※2学年11月データ
※2学年5月・11月データ

全国平均上回る **5月よりアップ**

成果 家庭学習の行い方が改善

家庭学習を促すための工夫

宿題提示の工夫と授業での活用

- ◇授業の振り返りの中で
次の授業に繋がる課題の提示をする
 - ◇小テストを次の授業の最初に行う
- など
- ↓
- 次の授業までに何をすれば良いかが分かった

宿題提示の工夫と授業での活用

保健体育学習カードの記入

- ◇自身のラップタイム
- ◇計算上のラップタイム

宿題（調べ学習）

- ◇走りのポイント
- ◇呼吸の仕方
- ◇次回計測の取組目標

各生徒が次回計測に
目標をもって取り組む

<宿題提示例>

長期継続 学習カード 1年 組 名氏

目標 長期継続では、自分のペースで継続できるフォームでペースを上げながら、一定のペースを維持し、タイムを短縮し続けたいと考えています。

◇中に適切な言葉や文章を書きましょう

◇授業中に宿題の進捗状況を記入してください

◇宿題の進捗状況を記入してください

◇宿題の進捗状況を記入してください

◇1日目の長期継続（予定1500m、実測1000m）について

目標は	□	□	すべてに	□	□
100mあたりで	□	□	200mあたりで	□	□

◇前回は1週ごとのタイムから、設定された目標です。

◇次の長期継続に、必ず取り組む目標を設定してください。

宿題提示の工夫と授業での活用

結果 ・2回計測 119名中、93名が**前回タイムを上回る**
 ・男子平均 **1.5秒** ↓ UP 女子平均 **12.5秒** ↓ UP

感想 ・呼吸のリズムやペース配分の大切さがわかった
 ・すぐくタイムがあがり宿題をやってよかった

学習カードほぼ全員提出⇒次も頑張ろうという意欲の高まり

宿題をやってきた ⇒ 授業に活かされた
 ⇒ 結果につながった ⇒ 他から認められた
 ⇒ 学習への意欲の高まり ⇒ 学習習慣の定着

3 成果と課題

成果

- 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」
- 「思考・判断・表現する力の育成」
- 「学習意欲の向上」

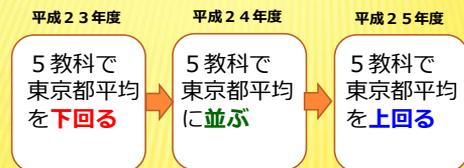
生徒の変容が数値で表れた

根拠となる資料

- 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果
- 「補充教室」への生徒の参加状況
- 「生徒による授業評価」結果

「基礎的・基本的な知識・技能の習得」

A 「教科の内容」



「基礎的・基本的な知識・技能の習得」

<顕著な例>

国語の**知識・理解・技能**の変化
 東京都平均と比較
 平成23年度 **-9.3%**
 平成24年度 **+0.2%**
 平成25年度 **+6.2%**

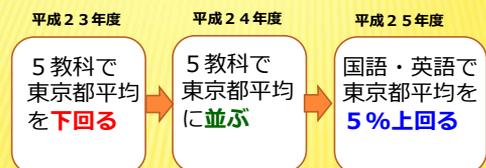
数学の**数学的な技能**の変化
 東京都平均と比較
 平成23年度 **-6.6%**
 平成24年度 **+3.3%**
 平成25年度 **+7.2%**

英語の**外国語理解**の変化
 東京都平均と比較
 平成23年度 **-3.7%**
 平成24年度 **-0.1%**
 平成25年度 **+5.8%**

学習活動に見通しをもたせ、振り返りを行う
 授業改善を行ったことや、学習機会の拡充による成果

「思考・判断・表現する力の育成」

B 「読み解く力に関する内容」



「思考・判断・表現する力の育成」

<顕著な例>

国語の 解決する力 の変化 東京都平均と比較して	
平成23年度	-10.1%
平成24年度	-1.9%
平成25年度	+6.7%

数学の数学的な 見方や考え方 の変化 東京都平均と比較して	
平成23年度	-7.7%
平成24年度	-6.6%
平成25年度	+6.9%

英語の 取り出す力 の変化 東京都平均と比較して	
平成23年度	-6.0%
平成24年度	-1.4%
平成25年度	+9.2%

平成25年度の 「全国学力・学習状況調査」 数学のB問題で 東京都の平均正答率	
	+5.5%

思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を
意図的・計画的に取り入れた授業改善の成果

「学習意欲の向上」

「補充教室」への参加率の増加

	5月	11月
「土曜学習教室」	16% →	52% (+36%)
「放課後質問教室」	30% →	65% (+35%)

- 試験前は学校で勉強してから帰るといふ雰囲気
- 「やらされている感」から「やるのが当たり前」

「学習意欲の向上」

「生徒による授業評価」結果

「授業で意欲や関心が高まり
知識や技能が身に付いていると思いますか」

	H24.7	H25.11	
全教科合計	74%	81%	(+7%)
国語	49%	77%	(+28%)
英語	46%	78%	(+32%)

学びのスパイラル



課題

■ 表現力の育成

考えたことを根拠を示して伝える

伝える力「**言葉の力**」の育成

■ 小中連携教育活動を通じた学力向上

「学力向上パートナーシップ事業」の取組

課題

■ 授業改善の推進

